

2024年2月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 2月えんだより

2月の聖句「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ローマの信徒への手紙 12章 15節

元日の朝、ここ数年は自宅のベランダから「初日の出」を見ることが恒例となっています。今年の元日も少し雲がかかっていたものの、穏やかな中で美しい初日の出を見ることができました。その数時間後、リビングで家族と過ごしていた時にあの長い揺れを感じました。29年前のあの時と違った揺れ方でしたが、「もしかして・・・。」と不安に駆られ、随分長く感じました。その後、直ぐにテレビからの地震速報と津波警報の速報が流れました。多くの人々がこの一年の平安を祈る元日から一転、大きな不安や恐怖、驚きに包まれた新しい年の幕開けとなってしまいました。あの時の神戸とはまた違った状況の中、ひと月余りが過ぎた今も多くの人々が地震直後と変わらぬ状況に置かれていることに心が痛みます。一日も早く、被災地の人々の日常が取り戻されることを祈っています。

もう半世紀も前になりますが、小学校の修学旅行で伊勢神宮に行きました。その年は1300年余り続く20年に一度の式年遷宮の年で、真新しい社殿と古い社殿の両方が並ぶ珍しい光景を目にしたのを覚えています。この伊勢神宮への信仰が人々の間に広まったのは平安から鎌倉時代にかけてのようです。その後、江戸時代になると、街道や宿場などの交通網が整備されたこともあり、庶民の間にお伊勢参りが拡がり、「おかげ参り」とも呼ばれるようになったようです。この「おかげ参り」というのは、日々の暮らしの平安や安全なお伊勢参りができるのは伊勢の神様の「おかげ」であるとの感謝の思いが込められものとも言われています。また、「おかげ参り」には多額の費用が必要だったのですが、「おかげ」と書いた柄杓1本と僅かな旅費だけでも「おかげ参り」に行くことができたようです。それは、「おかげ参り」に行く人々に施しをすることで施しをした人々も神様からのご利益をいただけたと考えられていたようで、多くの人びとが「おかげ参り」に行く人を援助する文化が確立していたためだといわれています。

イエス様は、私たちの罪の贖いの為に「神様からの愛」の証として私たちのもとに遣わされました。そして、神様が私たちを無条件で愛してくださっていること、その愛に応じて私たちに神様を愛すること、また、私たちに互いに愛し合うことを自らの行動と言葉で示されました。「神様からの愛」は、御心に適う行いをする人にもみ与えられるものではなく「すべての人」に与えられているのです。その「神様からの愛」への感謝として、共に泣き、共に喜ぶことができるような魂を持ったものとして歩みたいと思います。

2月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いっしょに	力あわせて
月の願い	*友だちや保育者と言葉を交わし、関わりを楽しむ中で、「いっしょっていいな」「たのしいな」と喜びを感じながら過ごしてほしいと思います。	*友だちと一緒に過ごす中で、考えを出し合い、工夫し、助け合い、一人ひとりが力を発揮して遊ぶ経験をしてほしいと願っています。
讃美歌	「つくしのよう」 幼児讃美歌58	「わたしはしゅのこどもです」 こども改123